

一粒の米

直江津小学校

六年

荒納

真緒

私のお母さんの食卓での口癖は、

「まだ、お茶碗にご飯粒が残っているよ。ち

ゃんと残さず食べなさい。」です。

私はその言葉を何度も聞かされ、正直しつこく、

「分かっているよ。何で同じことを何回も言う

の。」

と聞いたことがありました。するとお母さん

は、

「お母さんも、子供の頃お父さんに同じこと

を耳にしたことが出来るほど言われてね。海外の

恵まれない子供達の話とかね。」

と話しだしました。

お母さんの実家は柏崎で兼業農家をしてい

て、お米や、野菜を作っています。子供の頃

はゴールデンウィークには田植えをして、稲

刈や農作業は土曜日曜で、家族みんなで出か

けた記憶はあまりなくて、小さい頃は良かった

だをこねて親を困らせ、ていたと話してくれま
した。

「でも大人になって、家でおいしいお米を食
べられるってことは、とても幸せなことな
んだよ。」

と。中でも私の心に残った言葉は、

「お茶碗に一杯よそわれるご飯も、その中の
米一粒も口に入るまで同じ歳月が、かかっ
ているんだよ。だから、一粒も残さないうち
なさいよ。」

の一言でした。

私の学校では、五年生の時にお米を育てま
した。授業で、お米ができるまでの工程を知
り、とても手間がかかり体力のいる仕事だと思
いました。なので、私が育てた一苗で収穫
できたお米が、たった三口だったことにびく
りしました。もったくさん収穫できると思
っていたからです。たった三口で終わっただ
飯、たけど、自分で育てたお米を食べるこ
とができたことに、とてもうれしく苦勞の味

がしたのを覚えています。

私の家族は、飲食店を経営しています。お客様達が注文してくださり帰りに、

「また来るね。」

「おいしかつたよ。」

と言われている声を聞くと私もうれしくなります。しかし、お客様の残りご飯を見るとおいしくなかつたのかなど、どうしてモットたいないなと思つてしまいます。お母さんのじやもんのように何回も聞かされている

言葉のせいかなと思います。

おじいちゃんがお母さんに、お母さんから私に教えてくれた、

「一杯によそわれるご飯も、その中のだった

一粒の米も、育つまでに同じ時間と手間がか

かっているんだよ。」

ということを将来自分の子供にも伝えていきたいです。そうすれば、私自身も、感謝の気持ちをもつていつまでもおいしく食事ができると思ひます。